

「福井県立美術館の機能強化に関する基本計画」構成案 およびスケジュール

【基本計画の構成案】

1 現状

- (1) 建物の状況
- (2) 実施事業の状況
- (3) 収蔵品の状況
- (4) 入館者数推移

※現状の課題、強み・弱みを明確にし、機能強化ポイントを明確にする

2 目指す姿

- (1) 基本理念 考え方や価値観
- (2) 目指す姿 将来的に描かれてほしい風景
- (3) 基本方針 目指す姿への進み方、解決法となる考え方
※ターゲットをイメージし、基本方針を検討する。
※イメージしたターゲットからの意見聴取を行う。

3 目指す姿を実現するための基本施策

- (1) 実施する事業
- (2) その事業を実施するためのリニューアルの方向性
(新しい要素、老朽箇所への更新、諸室の規模と構成)
- (3) 美術館の運営体制

4 事業計画

- (1) 事業規模
- (2) 今後のスケジュール

【想定スケジュール】

7月	●第1回委員会 果たすべき役割 意見聴取	●意見聴取 アンケート ワークショップ等
8月		↓
9月	●第2回委員会 事業実施のためのリニューアル内容	
10月	●第3回委員会 県民意見の反映 中間とりまとめ	
11月		●議会説明
12月		
1月	●第4回委員会 最終とりまとめ 今後のスケジュール	
2月		●議会説明 ●パブコメ
3月	●計画策定	

美術館の現状

1 建物の状況

福井県立美術館は、昭和 52 年（1977 年）に開館し、現在までにおよそ半世紀が経過している。これまでに 2 度の増改築が行われ、また隣接する実技研修棟も既存建物を改修することで、現在の規模に至っている。設備の更新や不具合への修繕は随時行われてきたものの、大規模な改修は実施されていない。一方で、この半世紀の間に、社会が美術館に求める役割や機能は大きく変化している。

そのため、現在の福井県立美術館が直面している課題は、大きく「施設の老朽化への対応」と「新たな社会的要請への応答」の二点に集約される。

(1) 老朽化状況と対応

これまでの調査により、建築の各所で以下のような老朽化が確認されている。

○本館 屋外

- ・外壁、床、サッシ、外部金物、屋上防水、エキスパンションジョイント、雨水配管などに経年劣化が見られ、各所で破損やひび割れが発生している
- ・外壁や床タイルの破損は、安全面において懸念を生じさせる状況である
- ・美術品保護の観点から、防水性能の確保を目的とした修繕・更新が必要である
- ・鉄骨部には腐食や損傷が確認されており、階段部においてもノンスリップ材の剥がれや欠損が見られる。

○本館 屋内

- ・エントランスホールの床タイルには隆起が見られ、修繕が必要である
- ・各階の各室および廊下には多数のひび割れが発生しており、天井部には漏水と見られる痕跡が確認される
- ・展示室および講堂では、床・壁・天井に経年劣化が見られ、設備も含めて老朽化が進行しており、現代的な仕様への補修・更新が求められる
- ・改修に際しては、避難経路や消防法規など、現行法令への適合が必要である

○構造

- ・修繕箇所を的確に見極めたうえで、現行法令に適合する補強および修繕を実施する必要がある

○設備

- ・空調および電気設備は竣工時から使用されており、全体的に老朽化が進行している
- ・非常用電源については不具合が報告されており、省エネルギーの観点からも高効率機器への更新が求められる

○警備システム

- ・運用方針との整合を図りながら、現代的なシステムへの再構築が必要である

○実技研修棟（屋外 屋内共通）

- ・本館よりも長い経年を経ており、全体的に老朽化が進行している
- ・耐震性、避難経路、消防法規などについて、現行法令への適合が求められる

(2) 新たな社会的要請への対応

開館から約47年（2025年7月現在）が経過し、近年の博物館法の改正や文化観光推進法の制定などにより、美術館に対する社会的要請は大きく変化している。加えて、福井県の芸術文化施策全体を見渡したうえでの検討も必要である。新たな要請に応えるには、以下のような取り組みが考えられる。

○多様な来館者を惹きつける新たな美術館像の構築

- ・地域住民はもとより、県外からの来館者にも訴求する美術館像を再構築するとともに、エントランス・ショップ・カフェ等を含むパブリックゾーンの再編を図る必要がある。

○地域に開かれた活動を可能とする機能の拡充

- ・教育・普及活動の充実に資する諸室や機能の整備する必要がある。
- ・地域連携やコミュニティ形成を支える活動スペースの整備することが求められる。

○ユニバーサルな美術館づくり

- ・スロープや身障者対応エレベーターの整備を含め、バリアフリー対応の強化を図る必要がある。

○多様な展示環境への対応

- ・設備の省エネルギー化を前提とした展示室や講堂の更新を行う必要がある。
- ・多様な展示形式に対応可能な展示空間の構築が求められる。

○魅力ある収蔵品の展示

- ・日本美術を含む作品に対応した収蔵品展示スペースの在り方を検討する必要がある。

○収蔵・保存機能の強化

- ・福井の文化資源を保存するための収蔵庫を拡充する必要がある。
- ・資料の保存および活用を支えるアーカイブ機能の整備が求められる。

これらの課題に的確に対応するには、老朽化した施設の修繕・更新と、新たな社会的ニーズに応える空間整備の両面から総合的な計画を策定することが求められる。そのうえで、ハード（建築）とソフト（活動・運営）の両面にわたる具体的な検討が不可欠である。

2 実施事業の状況

(1) 展示事業

a. 10年間の入館者数推移（平成27年～令和6年）

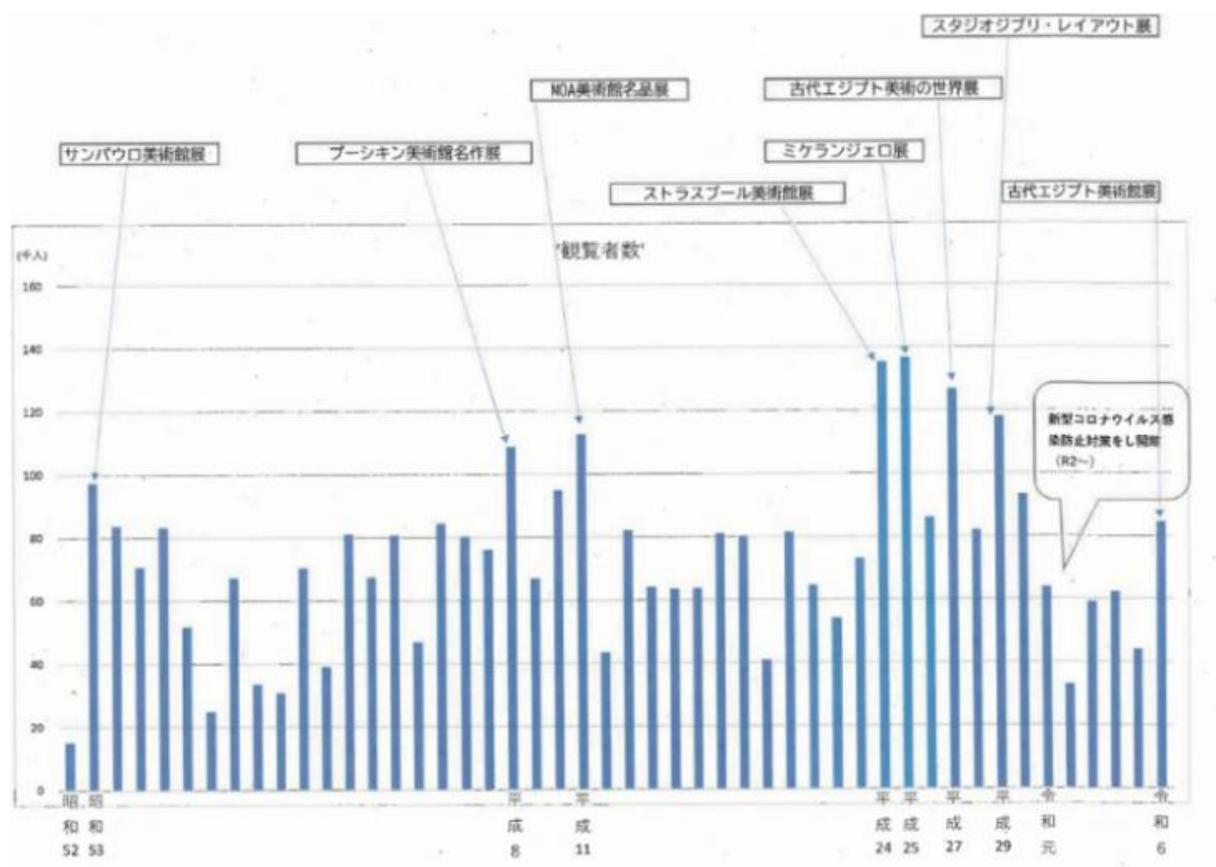
年度	特別企画展					テーマ・コレクション展	合計
H27年度	ゴッガン展	古代エジプト展	大永平寺展	レンブラント展	シャガール展	18,408	120,845
	8,668	62,807	14,444	10,386	6,132		
H28年度	岩佐又兵衛展	ランス美術館				22,170	74,470
	16,303	35,997					
H29年度	県美名品展	狩野芳崖と四天王展	スタジオジブリ			23,558	127,849
	22,993	9,072	72,226				
H30年度	ターナーからモネへ	ピカソ展	院展			57,753	137,107
	33,362	38,162	7,830				
R1年度	世紀の屏風絵	手塚雄二展	スーパークローン			10,805	58,146
	6,958	8,150	32,233				
R2年度	嶺南展	エイケン展	犬追物展		風景画	4,023	35,059
	3,249	15,023	1,341		11,423		
R3年度	ウッドワン	オードリー展	岐阜県美名品展		院展	13,758	47,342
	5,297	25,401	5,862		2,880		
R4年度	美人画展	戸田正寿展	絵本展			12,140	54,912
	7,129	26,602	9,041				
R5年度	富田溪仙展	北原展	パリ展			10,683	37,616
	2,536	20,068	4,329				
R6年度	横山大観	エジプト展	菱田春草展		院展	3,990	81,116
	11,144	54,213	7,331		4,438		

b. 特別企画展 入館者数トップ3

1位	ミケランジェロ展 (H25)	88,027人	共同自主+メディア2社
2位	スタジオジブリ展 (H29)	72,226人	共同自主+メディア1社
3位	古代エジプト美術の世界 (H27)	62,807人	共同自主+メディア2社

c. 課題

メディアの広報力を活用した展覧会は入館者数が多いが、県のみで開催した展覧会は内容が良くても入館者数が伸び悩む傾向にある。



(2) 貸館事業

a. 過去10年の貸館実績

年度	貸館		研修棟	合計
	共催 (県美展等)	その他団体		
H27年度	4,565	41,539	5,933	52,037
H28年度	5,944	53,919	3,327	63,190
H29年度	5,167	38,445	4,380	47,992
H30年度	5,495	26,893	3,750	36,138
R1年度	7,067	40,948	4,797	52,812
R2年度	728	26,616	3,944	31,288
R3年度	5,183	28,376	4,654	38,213
R4年度	4,925	26,091	2,750	33,766
R5年度	5,212	42,832	3,771	51,815
R6年度	10,342	23,862	3,521	34,208

b. 令和6・7年度（見込み）の実績詳細

○令和6年度

- ・貸し出し団体数 43団体（特別企画展が4本あり、例年より少ない）
- ・貸室稼働率（貸し出し日数÷貸し出し可能日数） 総合稼働率 83%

使用展示室	稼働率	備考
第1展示室	103%	休館日に展示対応
第2展示室	116%	休館日に展示対応
第3展示室	80%	
貸展示室	73%	
ギャラリー	69%	廊下のため希望者少

○令和7年度（見込み）

- ・貸し出し団体数 60団体
- ・貸室稼働率（貸し出し日数÷貸し出し可能日数） 総合稼働率 85%

使用展示室	稼働率	備考
第1展示室	90%	
第2展示室	105%	休館日に展示対応
第3展示室	84%	
貸展示室	77%	
ギャラリー	60%	廊下のため希望者少

(3) 教育・普及活動

a. キッズミュージアム

主に展覧会に合わせて、こども向けワークショップ等を行う

令和6年度実績

開催日	内容	対象	参加数
6/22	日本画材で描こう！貝合わせワークショップ	小学生以上	12
10/19	《落葉》ミニ屏風をつくろう！	小学生以上	15

b. ふれあいミュージアム

学芸員が小中学校へ出向いて授業を行う（出前授業） ※文化課事業

令和6年度実績

開催日	学校名	所在地	学年	参加数
6/27	上庄小学校	大野市	2年生	15
7/16	青郷小学校	高浜町	1、2年生	30
10/23	足羽第一中学校	福井市	特別支援学級	6
11/7	清水南小学校	福井市	5、6年生	22
11/12	三方小学校	若狭町	3年生	24
11/20	小山小学校	大野市	6年生	8
1/16	川西中学校	福井市	2年生	39
1/28	城崎小学校	越前町	5、6年生	16
	合計			160

※講座内容

日本画って何だろう／つくって知ろう！掛け軸の魅力／ペタペタ！コラージュを楽しもう！／浮世絵の中の福井

c. 実技講座

専門講師による長期の作品制作講座で、作家の育成を目的に開館当初から48年に渡り開催され、多くの県民の実技制作の入口の役割を果たす。

・基礎講座（募集人数）

日本画講座（15）/洋画講座（1名）/素描（デッサン）・水彩画講座（30）
各計10回

・専門講座（募集人数）

日本画講座（15）/洋画講座（15）/素描（デッサン）・水彩画講座（30）
各計25回

※それぞれ、年度末の「福井県立美術館実技講座受講生作品展」にて作品発表。

受講者からは県美展にて受賞、ギャラリーオーナー、個人・グループなどで制作を続け展覧会をする人（県美の貸館も利用）など、美術に関わる活動を行っている人を多数輩出

d. その他

○展覧会ごと

ギャラリートーク・講演会・シンポジウム・ワークショップ・親子鑑賞会・お茶会
ナイトミュージアム・コンサート・学校鑑賞会・フレンドリーアート号向け解説

○受け入れ

博物館実習・職業体験(中学2年)・町たんけん(小学3年)・教職員向け研修

e. 課題

- ・多くの教育普及活動を行っているものの、実技講座では若者の受講者が少ない。出前授業で学校を訪れても、その後生徒たちが美術館を訪れる機会が少ない、など、子どもや若者が美術に興味を持ち、美術館に来るところまで至るケースが少ない
- ・毎年、夏休みに全県下の全小中高校生に特別企画展が無料で鑑賞できる無料券「宿題応援券」を配布しているが、令和6年「古代エジプト展」の実績は、配布数85,465名分に対して、来館者は5,310名(約6.2%)であった

(4) 収蔵品の状況（点数）

	日本画	洋画	水彩	版画	彫刻	工芸	素描	書	映像	その他	計
購入	203	142	5	617	20	28	12	4	67	27	1125
寄贈	260	367	179	287	16	788	51	41	88	17	2094
計	463	509	184	904	36	816	63	45	155	44	3219

※寄託品 256 点を含めると 3,475 点

○美術館における作品収集の基本方針

a. 岡倉天心（覚三）が創設した日本美術院の関連作品

※横山大観、菱田春草等

b. 福井にゆかりがあり、日本の美術界を代表し国際的評価を得た作家の作品

※岩佐又兵衛、曾我派、美術運動グループ「北荘・北美」・「小コレクター運動」関係作家、小野忠弘、三上誠等

c. 国の内外を問わず、芸術的価値が高く既に評価を得た作家およびその作品

※ドーミエ、ルオー、ピカソ、ミロ等



岩佐又兵衛《龐居士図》



パブロ・ピカソ《ランプの下の静物》

○主要所蔵作品

a. 近世以前の美術

- 岩佐又兵衛《龐居士図》
- 葛飾北斎《杣人春秋山水図》
- 作者不詳《二十五菩薩来迎図》

b. 近代日本画

- 菱田春草《落葉》
- 狩野芳崖《伏龍羅漢図》
- 横山大観《湖上の月》



菱田春草《落葉》

c. 現代美術

- 小野忠弘《無題》、瑛九《あそび》

d. 西洋美術

- パブロ・ピカソ《ランプの下の静物》
- ポール・ゴーギャン《かぐわしき大地》

e. 工芸—岡島コレクション・ジャクエツコレクション

- 野々村仁青《色絵牛図茶壺》
- 《軍扇文金合口拵》
- 楠部弥一《彩埴八つ橋花瓶》

f. 岩野平三郎関連資料

- 小杉放菴《秋溪》
- 竹内栖鳳《柳郷清暑》



小野忠弘《無題》



野々村仁青
《色絵牛図茶壺》

【強み】

- ・福井ならではの作品を包括的に収集している
- ～近代：江戸絵画を代表する絵師・岩佐又兵衛、近代日本画を切り拓いた菱田春草、横山大観等の作品が充実
- 昭和～：地方の特異な美術運動「北荘・北美」・「小コレクターの会」関連作家の作品、国際的に活躍した現代美術作家・小野忠弘、戦後日本画の革新者・三上誠の作品が充実

【弱み】

- ・集客力のある作品が少ない
 - ・国宝、重要文化財が無く、一般に人気のある作品が少ない
- ※重要文化財は寄託品で2件あり《刀 無銘 伝備中依真》、良全《仏涅槃図》

県立美術館の目指す姿・果たすべき役割

県の文化芸術振興の方向性を定める「文化振興プラン」を踏まえ、美術館の目指す姿・果たすべき役割を検討

文化振興プラン(令和6年4月策定)		美術館の目指す姿・果たすべき役割(案)
みんなで創る 文化でつながる 人と地域が輝く福井		ひらかれた美術館、福井の美術を繋ぐ要としての美術館
それぞれの豊かさに出会い、自分らしく育む。	1 それぞれの楽しみをもっと応援！ 2 みんなが表現・参加できる機会をふやす！	○県民のアート活動を応援 ・10～20代の若手アーティストや障がいのあるアーティストの展示機会増加 ・県内でアートやデザインを学ぶサポート体制の充実 ○誰もがストレスなく楽しめる展覧会 ・オンライン解説(リアル配信)など、新技術を活用した展示会 ・館内のアクセシビリティ、分かりやすい導線の構築
ここにある輝きを、これからへ贈る。	3 文化芸術の担い手を育てる！ 4 地域の文化をのこす・つたえる！ 5 文化芸術で地域独自の魅力アップ！	○教育機関、市民団体との連携 ・美術資料をデジタル化し、教育機関等で利活用 ・アートを好きになる子ども向け連続講座、夜間講座など若者向けの美術講座 ○福井のアート活動を共有 ・福井県に関係する名作やゆかりの名宝を収集、展示、適切に管理・修復 ・館外での展示など、地域において活動、県民みんなで福井のアートをつくる ○気軽にアートに楽しめる空間 ・エントランスホール、カフェ、ショップなど、気軽に立ち寄れる場所へ ・アートを五感で体感できる空間演出
文化でつながる。文化で創り出す。	6 文化芸術で世界とつながる！ 7 文化芸術×経済により新たな力を！	○収蔵する名宝を年間通して展示 ・県立美術館収蔵の名品を定期的に展示し、年間通じた来館者増加 ○メディアをはじめとする企業との連携 ・メディア等と連携した展覧会の開催 ・企業・大学とのパートナーシップ、企業向け研修会の開催

県民への意見聴取方法

1 アンケートの実施案

ターゲット別活用イメージと配布方法

対象	主な配布方法	活用イメージ
a. 県立美術館への来場者 (現ユーザー)	館内紙+QR 配布/出口回収	現行サービス評価・リピーター要因の把握
b. 県民一般 (他施設の来場者/クリエイター・まちづくり関係者含む)	他の公共施設、報道利用、チラシやポスターなどで QR 拡散	利用経験がない層の阻害要因と潜在ニーズの抽出
c. 美術館展示利用者 (県内美術団体代表等)	県文化課登録・美術館登録名簿宛メール/郵送	施設貸出・展示機能に関する改善要望の把握
d. 教育関係者 (小中高大教職員)	教育委員会経由フォーム+FAX 回収・学校事務連絡	学習利用・校外学習ニーズ、連携条件の整理
e. 小中高校生・大学生 (次世代ユーザー)	学校配布プリント	若年層の興味関心と将来利用動機を把握
	授業内・部活内ワークショップ(訪問)	実施数:3~7校

2 各調査のねらいとデータ

a. 来館者アンケート(紙+QR)

・現状評価とリピーター要因の解明

鑑賞環境・接遇・展示内容・情報発信など、来館体験の「満足・不満足ポイント」を定量化

・集客導線の最適化

交通・アクセス・情報取得チャンネルをクロス集計、立地課題や広報投資の優先順位を可視化

・ファン化セグメントの抽出

来館頻度×年齢層×同行者構成を掛け合わせ、ファミリー/若年層/シニア層など継続来館の鍵を握るグループを特定

●取得したい主なデータ

カテゴリ	主な設問例	活用イメージ
基本属性	年代・市町村	地域別リピーター率の把握
来館行動	来館頻度・交通手段	アクセス改善・駐車場計画への反映
情報経路	SNS・新聞・口コミ等	効果的なメディアミックス検討
体験評価	動線・照明・作品解説など5段階	ハード改修・キャプション拡充の優先順位づけ
期待機能	ミュージアムショップ・休憩所・Wi-Fi等	新設/拡充機能の投資対効果試算

b. 県民一般アンケート（オンライン）

- ・ “来たことがない” 層の阻害要因を可視化
未来館層に特化した設問（行かない理由、行きたくなる条件）で潜在ニーズとハードルを数値化
- ・ 県民意識の温度感測定
リニューアル計画そのものの認知度と関心度を測り、広報戦略・説明責任の根拠資料に
- ・ 地域・年代による期待値ギャップの把握
嶺北／嶺南など地域差、若年層の文化的期待を定量比較し、アウトリーチ施策を設計

●取得したい主なデータ

カテゴリ	主な設問例	活用イメージ
認知度	リニューアル計画を知っているか	広報 KPI 設定
未・来館理由	距離・時間・料金・興味関心等	アクセス改善／料金設定根拠
行きたくなる条件	無料開放日・話題展・カフェ等	プログラム編成・サービス開発
期待分野	企画展ジャンル、地域作家展示等	収蔵方針・企画展ラインナップ検討
情報経路	SNS 広告・市町広報誌等	効果的な周知チャネル選定

c. 美術館展示利用者アンケート（県内美術団体・講座利用者）

- ・ 貸館・研修棟機能の改善指針を獲得
展示照明、什器、搬入導線、作品保管環境など使い手視点の具体的要望をリストアップ
- ・ 共同創造プログラムの種を発掘
ワークショップ、コラボ展示、地域連携企画など共創可能性を把握し、運営ソフト設計に直結
- ・ 料金施策・予約制度の適正化
使用頻度と支払意向を組み合わせ、料金体系の見直し・WEB 予約システム導入のエビデンスとする

●取得したい主なデータ

カテゴリ	主な設問例	活用イメージ
団体属性	設立年・会員数	潜在規模と成長予測
利用実態	使用スペース・頻度	レンタルスペース面積配分
改善要望	照明・天井高・ピクチャーレール等	ハード改修仕様書の要件化
付加機能	作品保存庫・制作スタジオ等	実技研修棟建替え計画への反映
共創意向	学芸員連携・共同企画等	年間プログラム／公募展設計

d. 教育関係者アンケート（小中高大教職員）

- ・学校連携プログラムの具体化
校外学習・探究学習・美術部活動など、教育現場が求める「学びのシーン」を抽出
- ・カリキュラム適合要件の把握
教科横断学習・STEAM 教育との連動ポイントを整理し、教育普及室機能を再設計
- ・団体利用障壁の解消
バス駐車スペース、昼食場所、予約手続き…実務的課題をリストアップし、受入体制コストを算定

●取得したい主なデータ

カテゴリ	主な設問例	活用イメージ
利用経験	校外学習実施回数	年間受入枠の設定
連携ニーズ	ワークショップテーマ・教材貸出等	学芸員配置・プログラム開発
障壁	交通費・引率教員数・時間割調整等	予算要求・予約システム改善
付加機能	教材庫・ICT 教室・オンライン授業対応	教育普及エリアの空間要件
成果測定	学習効果の評価方法	事業評価指標の策定

e. 小中高大の生徒、学生ワークショップ

- ・子ども目線の美術館の現状を可視化
子どもの持つ県立美術館のイメージを把握
- ・ワークショップ形式でグループディスカッションを行い、美術館への関心を促す
これからの美術館に期待すること（意見）を一緒に考えるきっかけとする

●取得したい主なデータ

カテゴリ	主な設問例	活用イメージ
利用経験	利用頻度	認知度、リピーターの把握
情報経路	SNS 広告・市町広報誌等	効果的な周知チャネル選定
行きたくなる条件	イベント、建築	プログラム編成、諸室考案
期待分野	企画展ジャンル、地域作家展示等	収蔵方針・企画展ラインナップ検討
美術館への期待	どんな美術館になって欲しいか	事業への意見活用

3 アンケート実施時期

●県立美術館の今後の主な予定

【特別企画展】 ミュシャ展 7/19～8/31

【中学生】 ふくい中学生・アートリンピック 9/21～9/28

【共催】 県美展 10/23～11/4

【高校生】 高校文化祭 11/7～11/9

フェーズ	期間	備考
調査設計・フォーム最終確認	2025年7月上旬	第1回委員会(7/11)後に最終確定
配布・回収① 来場者・教育関係者	2025年7月中旬～9月中	夏休み来館ピーク+学校利用期をカバー
配布・回収② 県民一般	2025年7月中旬～9月中	広報媒体へ同時掲載/SNS 広告2週展開
配布・回収③ 美術館展示利用者	2025年7月中旬～9月中	名簿宛に郵送・メール依頼
配布・回収④ 教育関係者(教職員アンケ)	2025年7月中旬～9月中	夏季研修時期に合わせて依頼
配布・回収⑤ 小中高校生	2025年9月初旬～9月中	2学期開始後、授業内回収+QR
集計・クロス分析	2025年9月下旬	CSV回収後、集計
報告書骨子案作成	2025年10月上旬	検討会中間案提出に反映
最終報告書案	2026年1月	基本計画案に組み込み